



# 計算量

Computational Complexity

計算機アルゴリズム特論：2017年度

只木進一

# 計算量

- アルゴリズムの良さをはかる尺度
  - 計算時間、記憶領域、理解しやすさ、プログラムへの変換の容易さ、等々
- 時間計算量(Time Complexity)
  - 計算に要する時間
  - 講義ではこちらを主に議論
- 領域計算量(Space Complexity)
  - 計算に要する記憶領域

# 計算量

- 稼働させる計算機に依存
  - CPU、メモリ、ディスクに依存
  - 仮想的計算機で比較
- 入力サイズに依存
  - 入力データのサイズ $n$ の関数として評価
  - 漸近的計算量に着目： $n \rightarrow$ 大のときの挙動

- 入力サイズが同じでも差
  - 探索データがリストの先頭なら速いが、末尾なら遅い
  - 平均値、最悪値（最も悪い場合の値）で議論
- どの部分に注目するか
  - 律速過程を見極める

## 例：多項式の計算

$$f(x) = a_4x^4 + a_3x^3 + a_2x^2 + a_1x + a_0$$

- 計算手順で演算回数が異なる
- 係数 $a_i$ と変数 $x$ を与えて、関数の値 $f(x)$ を求めるのに必要な計算
  - $x$ のべきを求めるための乗算4回
  - 係数と $x$ のべきとの乗算4回
  - 加算4回
  - 合計12回

```
double polynomial(double x, double a[]){  
    int n=a.length;  
    double v=a[0];  
    double xx=x.;  
    for ( int i=1; i<n; i++){  
        v += xx * a[i];  
        xx *= x;  
    }  
    return v;  
}
```

➡ Hornerの方法

$$f(x) = (((a_4x + a_3)x + a_2)x + a_1)x + a_0$$

➡ 乗算4回 + 加算4回

```
double polynomial(double x, double a[]){  
    int n=a.length;  
    double v=a[n-1];  
    for ( int i=1; i<n; i++){  
        v += v*x + a[i];  
    }  
    return v;  
}
```



## 例：多項式の計算：一般化

### ■ 律儀な方法

■  $n$ 次の項：  $2n$ 回の乗算

■  $n$ 回の加算

$$P(n) = \sum_{k=0}^n k + 2n = \frac{n(n+1)}{2} + 2n = \frac{n(n+5)}{2}$$

## ■ Hornerの方法

■ 一つの括弧を閉じる：乗算と加算が各1回

$$P(n) = \sum_{k=0}^n 2 = 2n$$

## 例：逐次探索

10	15	30	37	50	70	81	91
----	----	----	----	----	----	----	----

- ➡ リストの長さ  $N$
- ➡ 要素中の一つを探索
  - ➡ 位置  $i$  にある場合
    - ➡ 存在確率  $1/N$
    - ➡ 比較回数  $i + 1$

$$\frac{1}{N} \sum_{k=1}^N k = \frac{N+1}{2}$$

# 計算量の評価

- データのサイズ $n$ が大きいときに、計算量や計算時間が  $n$  に対してどのように増大するか
  - 定数倍にはあまり関心はない
    - 周辺の演算の影響
  - $n$  に対して最も速く増大する項に関心がある
    - $n$  が大きくなった時に最も重要

# オーダー記法

- 二つの関数 $f(n)$ と $g(n)$ を考える

$$0 \leq \lim_{n \rightarrow \infty} \left| \frac{f(n)}{g(n)} \right| \leq c$$

このとき

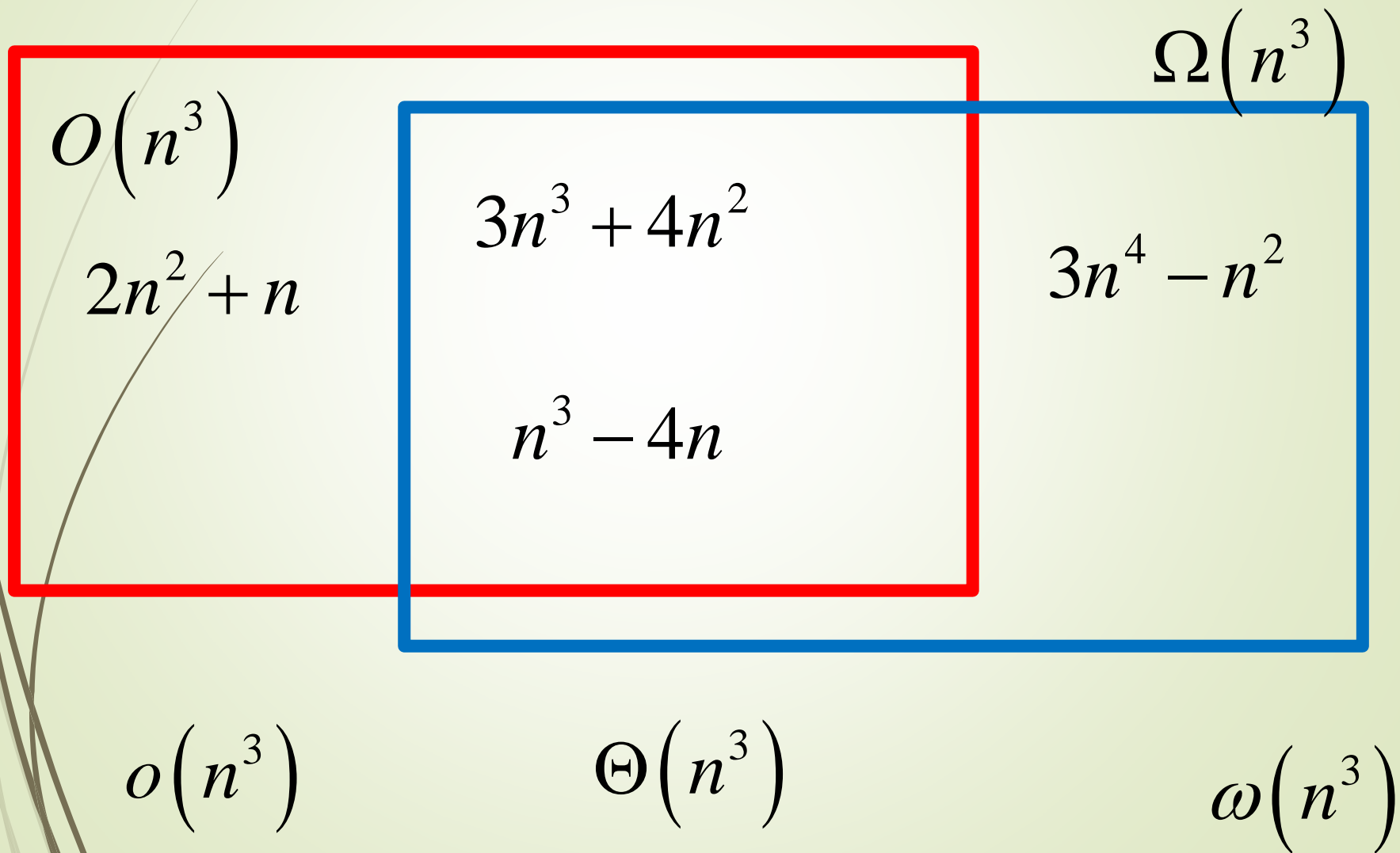
$$f(n) \in O(g(n))$$

- $n$ が大きいとき、 $f(n)$ は $g(n)$ より増加が速くない
  - 通常は、 $g(n)$ は簡単な関数形

# 他のオーダー記法

記法	定義
$f(n) \in O(g(n))$	$\lim_{n \rightarrow \infty} \left  \frac{f(n)}{g(n)} \right  \leq c$
$f(n) \in o(g(n))$	$\lim_{n \rightarrow \infty} \left  \frac{f(n)}{g(n)} \right  = 0$
$f(n) \in \Omega(g(n))$	$\lim_{n \rightarrow \infty} \left  \frac{f(n)}{g(n)} \right  \geq c$
$f(n) \in \omega(g(n))$	$\lim_{n \rightarrow \infty} \left  \frac{f(n)}{g(n)} \right  = \infty$
$f(n) \in \Theta(g(n))$	$f(n) = O(g(n)) \wedge$ $f(n) = \Omega(g(n))$

## オーダーの関係



## 例：多項式

- ➡ 律儀な方法：
- ➡  $O(n)$



# Insertion Sort

## 基本的考え方

- 大きさ10の配列の先頭5個は整列済みとする

B	E	H	M	T	D	K	X	R	L
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

- 6番目の要素"D"を適切な位置に挿入する

- 順に左に移動し、より小さい要素の手前に挿入

B	D	E	H	M	T	K	X	R	L
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

# Insertion Sort

## 基本的考え方:詳細

- 配列  $d$
- 0番から  $i - 1$  番までは整列済み
- $j = i$  から  $j$  を  $d_j < d_{j-1}$  である限り一つずつ下げ、 $d_j$  と  $d_{j-1}$  を入れ替える

# Insertion Sort アルゴリズム

```
for (  $i = 1; i < n; i++$  ) {  
    for (  $j = i; j > 0 \ \&\& \ d_j < d_{j-1}; j--$  ) {  
         $\text{exch}(j, j-1)$   
    }  
}
```

- 内側のループの要素入替回数（最大）
  - 1回目：1
  - 2回目：2
  - 最後： $n - 1$
- 要素入替回数（最大）  $O(n^2)$

$$\sum_{k=1}^{n-1} k = \frac{n(n-1)}{2}$$

